

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 財団法人京都 YWCA

1 事業の趣旨・目的

日本での生活を5つの場面(「行政サービスと市民生活」「健康」「災害」「子育て」「就労」)に分けて想定し、それぞれで使われる語彙の理解と運用を身につけ、長年にわたり日本で生活を送っている、あるいは送るであろう外国籍住民が、安全で快適な生活を送るために言語面での支援を行う。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	出席者	議題	会議の概要
2009.6.14	安藤いづみ 上村愈巳子 宮武美知子 花岡正義 吉岡恵津子 坪野えり子 山本知恵	1. 事業申請の経緯、経過説明 2. 実施体制と事業内容 3. 検討課題 4. 運営委員会代表選出	2. 実施体制と事業内容について 1) 運営委員と担当職員の確認。 2) 教授者案の検討。 教授者は基本的に大阪 YWCA 日本語教師会に再委託 3) 保育サービスの検討。 クラス内容について「生活のための日本語:全国調査」(独立行政法人国立国語研究所他)アンケートを参考に意見交換。以下の案を確認。 ①オリエンテーション ②「市民生活」 (各種手続、コミュニティーでの付き合い方、災害対策) ③「就労」(求職・面接) ④「健康」(病気、けが、介護) ⑤「子育て」(入学、学校、行事、便りなど) 3. 検討課題 1) 各項目の受講対象層を踏まえて実施期間と曜日、開催時間、各項目の時間数設定 2) 受講生のレベルを規定するか否か。(例:「ひらがなの読み書きができる。」または、「日常会話レベルができる。」など) 3) 大阪 YWCA 日本語教師会に依頼する範囲。

			<p>4) にほんご教室洛楽、他会員からの協力者について クラスでの補助者、通訳者の検討。</p> <p>5) チラシ記載内容、と広報先クラスの内容、チラシの作成形態によって配布先が変わるかどうかなど。</p>
2009.7.4	<p>安藤いづみ 上村愈巳子 宮武美知子 花岡正義 吉岡恵津子 坪野えり子 山本知恵</p>	<p>1. 講座内容について 2. 受講者のレベル 3. 講座開催日 4. チラシ内容と翻訳言語 5. 講座教授者と補助者、通訳者</p>	<p>1. 講座容について</p> <p>1) <u>提供するべき生活に必要な基本情報について</u>:各項目毎に生活に必要な基本情報(参加者の母語で記載されたもの)を提供。その後、各場面で最低限必要な会話、重要な語彙・漢字を視覚で認識できるようにする。 →翻訳する基本情報の範囲は?まず、行政機関や京都市国際交流協会、京都府国際センターで提供している各言語の情報収</p> <p>2) <u>オリエンテーション</u>:講座内容の説明だけでなく、参加者の日本語能力を確認する。講座全般にわたって必要な自己紹介ができるように。名前、住所は書けるような授業を行なう。本講座以外の地域の日本語教室や生活で必要な情報が得られる機関、HPなどの紹介をする。→講座の概要を説明するのであれば、参加者の母語での通訳者が必要</p> <p>2. 受講者レベル ひらがなの読み書きができること</p> <p>3. 講座開催日 10月より開催。市民生活クラス、就労クラスは働いている人を想定し土曜日。健康クラス、子育てクラスは母親を想定し平日火曜日。</p> <p>4. チラシ内容と翻訳言語 各クラス(項目)ごとではなく、全体の総合案内を作成。日本語のほか、中国語、ハングル、英語、タガログ語でも作成。</p> <p>5. 講座教授者と補助者、通訳者 市民生活、子育て、就労:大阪 YWCA 日本語教師会メンバー 健康:京都 YWCA にほんご教室洛楽メンバー 補助:京都 YWCA にほんご教室洛楽メンバー 通訳:京都 YWCAAPT メンバー、語学講師など 保育:京都市シルバー人材センターばあばサービスピノキオ</p>
2009.7.16	<p>安藤いづみ 上村愈巳子 清島千春 白川啓子 宮武美知子</p>	<p>1. 再委託内容確認 2. 講座の確認</p>	<p>1. 再委託内容確認</p> <p>2. 講座の確認</p> <p>1) 講座内容 日本語の会話クラスとして成り立つ内容と成り立たない内容(在留資格や社会保険、税金のことなど)がある。参加者背景やレベルに合わせて</p>

	花岡正義 坪野えり子		<p>臨機応変にする。</p> <p>2) 受講者 ひらがな、カタカナの読み書きは出来る人。オリエンテーション以前の 9 月末にレベルチェックを行う。上級者は対象としない。</p> <p>3) 通訳者 クラス中に通訳者がいると通訳者に頼ってしまい、授業内容が身につかないこともあるのでクラスに通訳者は置かない。オリエンテーションで、日本語教室、外国籍住民サポートについて案内するので、そこには通訳者をおく。</p>
2009.8.6	安藤いづみ 上村愈巳子 宮武美知子 花岡正義 吉岡恵津子 坪野えり子 山本知恵	<p>1. 講座の日時決定</p> <p>2. 基本情報の内容と情報源</p> <p>3. 広報について</p>	<p>1. 講座の日時決定</p> <p>2. 基本情報の内容と情報源 多言語生活情報(財団法人自治体国際化協会)の HP に多項目にわたって 17ヶ国語で情報が提供されているので、これを利用する。オリエンテーションでHPを紹介するほか、必要に応じてクラスでも基本情報を活用しながらクラスを進める。そのほか、京都府下、京都市内のほんご教室、APT や京都市国際交流協会、京都府国際センターの外国籍住民への支援活動などをオリエンテーションで案内する。京都市国際交流センターで配布されている京都生活情報が受講生の言語で必要分入手できれば、そちらも配布する。</p> <p>3. 広報について チラシは日本語のほか英語、タガログ語、中国語、韓国語に翻訳し各方面へ 8 月末までに配布、郵送。 配布先案: 病院、保育所、小中学校、ハローワーク、保健所、区役所、京都市国際交流センター、京都府国際センター、京都府下の外国籍住民を支援しているグループ、キリスト教会、各国の在日のコミュニティ、各大学留学生課、日本語教室など</p>
2009.9.19	安藤いづみ 上村愈巳子 宮武美知子 花岡正義 吉岡恵津子 坪野えり子 山本知恵	<p>1. 申込者について進捗状況報告</p> <p>2. 受付最終期限</p> <p>3. レベルチェック日程</p> <p>4. オリエンテーション内容</p>	<p>1. 申込者について進捗状況報告</p> <p>2. 受付最終期限 定員まで受け付け、また満たない場合は、講座開講後も必要に応じて広報し、受け付ける。</p> <p>3. レベルチェック日程</p> <p>4. オリエンテーション内容 1) 全体の進行と講座の説明 コース全体と各コースの日時、内容確認。講師、補助者の紹介。情報提供、資料説明。</p>

			<p>2) 通訳者、保育者の確認</p> <p>3) 生活のための情報提供の内容と必要資料 APT の紹介、京都市国際交流協会の「京都市生活ガイド」、京都日本語 RINGS の「市内の日本語教室地図」を配布。 Web で「多言語生活情報」のサイトを紹介。</p> <p>4) オリエンテーション終了後、講師と補助者のミーティングを行う。</p>
2010.3.27	<p>安藤いづみ 上村愈巳子 宮武美知子 花岡正義 吉岡恵津子 坪野えり子 山本知恵</p>	<p>1. 文化庁からの視察報告</p> <p>2. 講座全体の報告</p> <p>3. 2010 年度に向けて</p>	<p>1. 文化庁からの視察報告</p> <p>2. 講座全体の報告</p> <p>1) コース・期間・講師・参加者数、参加者の出身国、広報機関と広報先、 ・全体広報を講座開催前に行ったが、各項目(クラス)ごとに再度広報を行ったほうが良かったのではないかと。</p> <p>2) 講師ミーティングでの評価について報告(参加者数、レベル、項目設定についてなど。) ・日本語習得のみならず、情報提供が多く盛り込まれていたこともあり、クラスで使う語彙が行政用語なども含まれ難しかった。上級者を参加者対象から省かなくても良かったかもしれない。 ・日常クラスの内容が、広報段階で曖昧であったため、受講希望者にアウトリーチできたか不明。時間数も多く、カリキュラム組に苦労した。</p> <p>3) 参加者からの意見</p> <p>3. 2010 年度に向けて 既に 2010 年度の委託事業に申請している。委託を受けた場合に再度協力いただきたい旨を確認。</p>

【写真】(会議風景の写真を撮ってありませんでした。申し訳ありません)

3 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称:「安心して暮らすための日本語教室」
- ② 開催場所: 京都YWCA会館(京都市上京区室町出水上ル近衛町 44)
- ③ 学習目標: 日本での生活する上で直面する「健康」「日常生活」「子育て」「仕事」の場面を設定し、それらの場面で必要となる情報の提供と、使用される語彙、会話の習得を目指す。
- ④ 使用した教材・リソース:
多言語生活情報[財団法人自治体国際化協会]HP
「京都市生活ガイド」「地震・緊急行動マニュアル」(京都市国際交流協会)
『あっ、地震だ! どうする?』、『けがだ! 病気だ! どうしよう?』(にほんご教育の会「八の

会」)

『イラスト・カット大全集』(成美堂出版)

『外国人のための看護・介護用語集』(国際交流基金関西国際センター)

『日本生活事業』(アルク)

「多言語・多文化ブックレット」「シリーズ多言語・多文化協働実践研究」(東京外国語大学
多言語・多文化教育研究センター)

その他、中国帰国者のための教材や実際の生教材など多数。

⑤ 受講者の募集方法:

チラシを京都府下、滋賀の国際関係団体、京都市内区役所、保健所、大学、キリスト教会
に送付、持ち込み。京都 YWCA ホームページに掲載。きょうと RINGS のメーリングリストで
呼びかけ。京都、朝日、毎日、読売新聞に告知依頼。

⑥ 受講者の総数 22 人 (延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

⑦ 開催時間数(回数) 60 時間 (全 30 回)

⑧ 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
①	10月3日 15:30-17:30	2時間	10人	韓国・韓国語(2人) タイ・タイ語(1人) ベトナム・ベトナム語(1人) フィリピン・タガログ語(2人) 中国・中国語(3人) シリア・アラビア語(1人)	教授者1人 補助者4人	日本語で自己紹介。他者紹介。 伝言ゲーム
②	10月6日 10:30-12:30	2時間	8人	韓国・韓国語(3人) タイ・タイ語(1人) フィリピン・タガログ語(1人) 中国・中国語(1人) インド・ヒンディー語(1人) アメリカ・韓国語(1人)	教授者1人 補助者1人	情報:日本の病院について。診療科の種類・病院へ持参するもの・診察の流れ 会話:病院を探す・受付にて
③	10月13日 10:30-12:30	2時間	6人	韓国・韓国語(3人) タイ・タイ語(1人) フィリピン・タガログ語(1人) 中国・中国語(1人)	教授者1人 補助者1人	情報:健康保険・生活保護と医療券 会話:症状を伝える
④	10月20日 10:30-12:30	2時間	6人	韓国・韓国語(3人) タイ・タイ語(1人) フィリピン・タガログ語(1人) 中国・中国語(1人) アメリカ・韓国語(1人)	教授者1人 補助者1人	情報:薬局と薬店。薬を受取時の確認事項 会話:会計、薬局にて 教材:
⑤	10月27日 10:30-12:30	2時間	4人	韓国・韓国語(2人) タイ・タイ語(1人) 中国・中国語(1人)	教授者1人 補助者1人	情報:急病、大怪我の時 119 休診の時 会話:緊急の際、助けを呼ぶ 119に電話する 教材:
⑥	11月10日 10:30-12:30	2時間	4人	韓国・韓国語(2人) タイ・タイ語(1人) アメリカ・韓国語(1人)	教授者1人 補助者1人	情報:健康診断、検査、入院。 会話:検査、入院、手術の際 教材:
⑦	10月10日 15:30-17:30	2時間	7	韓国・韓国語(1人) タイ・タイ語(1人) ベトナム・ベトナム語(1人)	教授者1人 補助者1人	日常生活 ゴミの分け方・出し方① 教材:実際のゴミを仕分けてみ

				日本・ジャワ語(1人) フィリピン・ジャワ語(1人) 中国・中国語(1人) アメリカ・英語(1人)		る。地域で配布されている資源ゴミの分別表
⑧	10月17日 15:30-17:30	2時間	5	韓国・韓国語(1人) タイ・タイ語(1人) ベトナム・ベトナム語(1人) 日本・ジャワ語(1人) アメリカ・英語(1人)	教授者1人 補助者1人	日常生活 ゴミの分け方・出し方② 教材:
⑨	10月24日 15:30-17:30	2時間	6	韓国・韓国語(1人) タイ・タイ語(1人) ベトナム・ベトナム語(1人) 日本・ジャワ語(1人) 中国・中国語(1人) スリランカ・シンハラ語(1人)	教授者1人 補助者1人	日常生活 交通ルール 公共交通機関の利用 教材:
⑩	10月31日 15:30-17:30	2時間	6	韓国・韓国語(1人) タイ・タイ語(2人) ベトナム・ベトナム語(1人) 中国・中国語(1人) スリランカ・シンハラ語(1人)	教授者1人 補助者1人	日常生活 落とし物、忘れ物、遺失物を届ける。外国人登録書をなくしたら。 教材:
⑪	11月7日 15:30-17:30	2時間	5	韓国・韓国語(1人) タイ・タイ語(1人) ベトナム・ベトナム語(1人) 中国・中国語(1人) スリランカ・シンハラ語(1人)	教授者1人 補助者1人	日常生活 地震の際の対処 震度とは？地震速報を聞いてみる。
⑫	11月14日 15:30-17:30	2時間	5	韓国・韓国語(1人) タイ・タイ語(2人) ベトナム・ベトナム語(1人) スリランカ・シンハラ語(1人)	教授者1人 補助者1人	日常生活 台風の際の対処 天気予報図の言葉
⑬	11月21日 15:30-17:30	2時間	4	タイ・タイ語(2人) ベトナム・ベトナム語(1人) スリランカ・シンハラ語(1人)	教授者1人 補助者1人	日常生活 火事の際の対処 119に電話をする。 上京消防署より協力を得て実際に119に掛けてみる。
⑭	11月28日 15:30-17:30	2時間	3	韓国・韓国語(1人) タイ・タイ語(1人) スリランカ・シンハラ語(1人)	教授者1人 補助者1人	日常生活 結婚と離婚 必要な書類や手続き 在留資格の変更。離婚と子ども

⑮	12月12日 15:30-17:30	2時間	4	韓国・韓国語(1人) タイ・タイ語(2人) スリランカ・シンハラ語(1人)	教授者1人 補助者1人	日常生活 葬式 服装、香典、墓参り、死亡届と在留資格
⑯	12月19日 15:30-17:30	2時間	4	タイ・タイ語(2人) スリランカ・シンハラ語(1人) イギリス・英語(1人)	教授者1人 補助者1人	日常生活 年末年始 年末年始の恒例行事について 忘年会、大掃除、年越し蕎麦、年賀状、ひたたくりに注意
⑰	1月9日 15:30-17:30	2時間	3	タイ・タイ語(2人) ベトナム・ベトナム語(1人)	教授者1人 補助者1人	日常生活 住んでいる地域を知る 自治会とは。回覧板について
⑱	1月16日 15:30-17:30	2時間	4	韓国・韓国語(1人) タイ・タイ語(2人) スリランカ・シンハラ語(1人)	教授者1人 補助者1人	日常生活 災害時の対処 地域の避難所を知る。非常持ち出し品。災害伝言ダイヤルに掛けてみる。
⑲	1月23日 15:30-17:30	2時間	3	韓国・韓国語(1人) タイ・タイ語(1人) 中国・中国語(1人)	教授者1人 補助者1人	日常生活 家を探す 住宅の種類。物件を探す。住宅情報を見してみる。
⑳	1月30日 15:30-17:30	2時間	4	韓国・韓国語(1人) タイ・タイ語(2人) スリランカ・シンハラ語(1人)	教授者1人 補助者1人	日常生活 引越し 解約手続き。引っ越し業者。転出入届け。水道電気ガスの解約開栓届け。
21	11月17日 10:30-12:30	2時間	4	韓国・韓国語(3人) 中国・中国語(1人)	教授者1人 補助者1人	子育て 妊娠・出産 赤ちゃんの健康診断と育児相談
22	11月24日 10:30-12:30	2時間	4	韓国・韓国語(3人) タイ・タイ語(1人)	教授者1人 補助者1人	子育て 体・病気・けがの語彙
23	12月1日 10:30-12:30	2時間	4	韓国・韓国語(1人) タイ・タイ語(1人) 中国・中国語(2人)	教授者1人 補助者1人	子育て 保育園と幼稚園 子どものいる家庭の補助 児童手当・母子家庭
24	12月8日 10:30-12:30	2時間	6	韓国・韓国語(3人) タイ・タイ語(1人) 中国・中国語(2人)	教授者1人 補助者1人	子育て 小学校の1日と年間行事。幼稚園、学校の懇談会など
25	12月15日 10:30-12:30	2時間	7	韓国・韓国語(4人) タイ・タイ語(1人) 中国・中国語(2人)	教授者1人 補助者1人	子育て 日本の料理 お弁当をみんなで作る
26	12月22日 10:30-12:30	2時間	3	韓国・韓国語(1人) タイ・タイ語(1人) 中国・中国語(1人)	教授者1人 補助者1人	子育て

27	2月6日 15:30-17:30	2時間	4	タイ・タイ語(1人) 日本・タガログ語(1人) スリランカ・シンハラ語(1人) 中国・中国語(1人)	教授者1人 補助者1人	仕事 仕事探し ハローワークとは。求人広告の言葉と見方。電話での問い合わせ。
28	2月13日 15:30-17:30	2時間	5	韓国・韓国語(1人) タイ・タイ語(1人) 日本・タガログ語(1人) スリランカ・シンハラ語(1人) 中国・中国語(1人)	教授者1人 補助者1人	仕事 履歴書とは。 履歴書を実際を書いてみる。
29	2月20日 15:30-17:30	2時間	4	韓国・韓国語(1人) タイ・タイ語(1人) スリランカ・シンハラ語(1人) 中国・中国語(1人)	教授者1人 補助者1人	仕事 仕事上のルール 資格外 活動許可書や勤労資格証明書。 雇用契約書。保険と年金。解雇について。
30	2月27日 15:30-17:30	2時間	4	韓国・韓国語(1人) タイ・タイ語(1人) スリランカ・シンハラ語(1人) 中国・中国語(1人)	教授者1人 補助者1人	仕事 面接を受ける際の注意。実際に模擬面接を受けてみる。

⑨ 特徴的な授業風景(2~3回分)

2009年10月3日(土)15:30-17:30

「クラスオリエンテーションと自己紹介、他者紹介、伝言ゲームなど」

これから講座を受ける申込者、教授者、補助者が集まり、クラスの内容、生活情報を得るための情報源や支援団体の案内を行った後、各自自己紹介、他者紹介の他、伝言ゲーム、自分の名前、住所を日本語で話してみるなどのクラスも行った。



2009年11月21日(土)15:30-17:30 「日常生活-火事の際の対処について」

クラスの前半は火事の際の対処についてハンドアウトを使って防火についての知識や、119番に電話した際の会話例(自宅の住所、火事の様子、けが人の有無を伝える)を学んだ。後半は上京消防署の協力を得て実際に119に掛けて、練習した会話が通じるかためしてみた。意外にも住所を正確に伝えることが難しいことを学習者、消防署員が互いに認識した。その後、消火器を実際を使って消火訓練も経験した。



2009年12月15日(火)10:30-12:30 「子育て—日本の食事とお弁当—」

クラスの前半はハンドアウトを使って、日本で良く食される食事の名称、味覚の表現、調理方法、調味料、調理道具の語彙について学んだ。また、日本で弁当がどのような機会に良く食べられるのか(幼稚園・学校・会社の昼食として、また遠足など行事の際、屋外で食されることなど)を学んだ。また内容物として好まれる物や彩りが考慮されることなども学んだ。後半は実際に「おにぎり」と「卵焼き」を作ってみた。その他、自宅から各自、自国で食されるおかずを持ち寄り、日本のお弁当との違いなどについて会話を楽しみながら会食を持った。



⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年 (日)数	参加回数	当該教室での役割
TOJIRAKARUN Mashima	タイ語(タイ国)	4年	1回	オリエンテーション通訳
崔善今	中国語・韓国語 (中国)	5年	1回	チラシ翻訳(韓国語) オリエンテーション通訳(中国語)
カーフ・ロイス	英語(アメリカ)	45年	1回	チラシ翻訳 オリエンテーション通訳
福島習和	中国語(中国)	25年		チラシ翻訳(中国語)
ニコール コマファイ	タガログ語 (フィリピン)	5年	1回	チラシ翻訳

⑪ 支援者の名簿(⑦以外)

氏名	所属	専門分野及び日本語 教育に関する資格	参加回数	当該教室での 役割
内田匡子		日本語教育養成講座 修了	1回	クラス補助
一色光世		日本語教育養成講座 修了	1回	クラス補助
小室京子		日本語教育養成講座 修了	1回	クラス補助
篠田茜		日本語教育養成講座 修了	1回	クラス補助
光田敦子		日本語教育養成講座 修了	1回	クラス補助
池上信子		日本語教育養成講座 修了	1回	クラス補助
北垣景子		日本語教育養成講座 修了	1回	クラス補助

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

日本での生活を4つの場面(市民生活「健康」「子育て」「仕事」)に分けて、それぞれで使われる語彙の理解と運用を身につけ、日本で生活を送っている外国籍住民が、安全で快適な生活を送るために言語面での支援を行うことを目的とし、文法を積み上げていく方法ではなく、生活で直面する場面に応じた情報とそこで使われる語彙、会話例、申請書類などの書き方などをベースにカリキュラムを組み、生教材や複数のテキストをもとに独自のハンドアウトを作成し、クラスを進めていくことができた。

② 学習者の習得状況

「ひらがな・カタカナの読み書きができること」を受講の必要条件にし、レベルによってのクラス分けをしなかったため、学習者のレベルに開きがあり、少人数ではあったが、カリキュラム設定、クラス運営は難しい点もあった。補助者を置くことで、初級レベルや非漢字語圏の学習者のフォローをすることができた。情報提供については、多言語生活情報〔財団法人自治体国際化協会〕のHPや京都市国際交流協会発行の生活情報冊子等を参考にしたが、初級レベルの学習者には難しかったかもしれない。また、現在直面している問題等が無い場合、(例えば入院の手続き、保健のこと、引っ越しの手続き、離婚等)知識として学習するには、複雑でモチベーションが低くなる学習者もあり、1度の授業での理解、習得ができたかどうかは疑問が残る。講座の企画側として、学習者に必ず知っておいてほしい情報と、学習者自身が、今現在知りたい情報とが必ずしも一致していない場合のクラス運営の難しさがあった。

漢字圏、非漢字圏の学習者が同じクラスで学ぶことになったが、全体的な日本語のレベルが高くない漢字圏の学習者であっても、初めての漢字の意味を推察することができたが、比較的会話には問題のない学習者であっても非漢字圏の学習者には、難しい語彙、内容があったかもしれない。この点については、補助者がフォローしていたが、日本で生活する上で、たとえば医療機関、行政機関、学校等で配布されるもの、申請書類、説明書類などに難しい漢字、その場面でのみ使われる漢字がいかに多いかを再認識した。

③ 日本語教室設置運営の効果、成果

①に記載の通り、当初の目的である生活する上で必要となる情報の提供とそれに伴う日本語の習得を併せた講座を提供することができ、学習者は今後の生活の中で、それぞれの場面に応じて、今回の学習内容を活かしてくれることを期待している。また、学習者は出身国の多様性のみならず、独身者、子育て中の母親、妊娠中の人、日本人配偶者を持つ人(男女とも)、求職中の人など様々な背景を持つ学習者が参加し、日本の生活年数も違っており、普段会うことのない学習者たちが出会い、互いの日本での生活を知り、それぞれが持っている知識、経験を共有する機会ともなった。

④ 地域の関係者との連携による効果, 成果 等

日本での生活の様々な場面を想定し、講座の内容と照らし合わせ、地域の各関係団体との連携を計画していた。実際には地域の消防署、警察署に依頼し、消防署からの協力を得て、119 番通報や消火器の使い方などを体験するなど、実践に近い状況で日本語学習を行うことができた。消防署側に対しては、実際の外国語を母語とする住民にとって、緊急時に電話で通報することが非常に難しいことを再認識してもらうことや、母語の影響から発音しづらい言葉があることなど現実を知ってもらうことができた。また、外国語を母語とする住民に対して配布されている緊急カードが使いにくいものであり、今後、改定する場合には、改善してほしい点などを伝えることができた。今回、協力が得られたのが地域の消防署だけであったが、今後、同様の講座を開催する際には、他の団体、行政機関等とも連携を図りたい。

⑤ 改善点, 今後の課題について(具体的に記述する。)

a. 現状

- 1) 情報提供をどこまでどのように行うか。今回は日本語講師が行ったが、内容に応じてそのことに精通している関係者が通訳者も交えて伝えるのが良いのではないか。
- 2) このような講座を必要としている外国籍住民にどれだけ到達することが出来るか。どのような広報手段が適切か。

b. 今後の課題

- 1) 地域の関係者の協力者の開拓。外国籍住民、多文化共生に関心が無くても、このような講座に協力してもらうことにより、地域社会の外国籍住民の存在を知り、互いが顔のみえる関係をつくり、共生社会を創ることの重要性を認識することにもつながると良い。
- 2) 当該事業を必要とする人に情報が届く広報の工夫。講座の内容に伴って広報回数、チラシ等の配布先等の検討も必要。また、送付、配架だけではなく、各機関に出向いての依頼も必要なのではないか。

c. 今後の活動予定, 展望

2010 年度に文化庁の委託事業として、今回の講座内容を改良した企画で申請している。受理された場合には上記の現状と課題を踏まえて、よりよい講座を必要としている外国籍住民に提供し、地域の多文化共生社会の実現に貢献したい。

③その他参考資料